

道の駅を“学びの場”に

「ミニ防災セミナー」等開催計画 実施要領

道の駅「上品の郷」

平成 27 年 3 月

特定非営利活動法人 人と道研究会

開催趣旨

東日本大震災から3年が経ち、さらなる東北復興が期待されております。一方で南海トラフなど巨大地震の切迫も予測され、日ごろの備えの大切さが指摘されています。

わが国は古来、宿命的な自然災害が繰り返されてきましたが、先人たちは営々と脆弱国土への働きかけを絶やさず、四季織りなす美しい自然の恵みも活かして今日の繁栄を築き上げました。豊かな時代に生きる私たちは、安全で健康で快適な国土を次世代に継承する責務があります。

設立10周年を迎えたNPO人と道研究会は、平成17年に創刊し全国の「道の駅」に無料配布している「道21世紀新聞」(ルートプレス)を通じて、国土や道路の安全、防災、環境、地域振興等の重要性を報じ、災害常襲列島への不断の備えの大切さを訴えてまいりました。

平成24年末、全国「道の駅」連絡会の設立に際し、岩手県遠野市で開かれた、道の駅のあり方等を話し合うシンポジウムの折に、公共施設としての役割や機能をもっと大切にと、「道の駅を学びの場に！」との考え方を紹介し、ご賛同を得ました。これを受けて昨春、千葉県南房総市の道の駅「和田浦WA・O！」／同秋の高知県香南市の道の駅「やす」／今春3月には栃木県茂木町の道の駅「もてぎ」／6月には千葉県山武市の道の駅「オライはすぬま」で、ミニ防災セミナーの開催を重ねてまいりました。

今後も、趣旨に賛同いただける道の駅を「学びの場」として、全国の道の駅で同様のセミナーを順次、開催していければと願っております。道の駅は、地域振興の拠点でもありますので、地域の実情に応じてテーマを防災のほか地域連携、伝統、観光などにも広げ、体験型イベントを取り入れることなども考えております。

道の駅の公的役割をさらに高める一つの方途として、全国「道の駅」連絡会や各ブロック「道の駅」連絡会、関係自治体等と一体となり、「ミニ防災セミナー」をさらに進化させていきたいと思っております。

皆様には趣旨をご理解いただき、開催へのご協力を賜ることができますよう、よろしくお願い申し上げます。

道の駅を“学びの場”に、実施計画

1. ミニ防災セミナー

多様な人々が自由に入出入りする道の駅は、休憩・情報発信・地域連携という本来の機能以外に、地域防災の拠点として新たな役割を果たすことが期待され、また、地域特有の自然、歴史、伝統、習俗、芸能など様々なものを学ぶ場としてもふさわしい機能を備えている。

東日本大震災以来、特に防災に対する国民の関心が高まっている折、地方自治体、防災関連行政機関等が積極的に道の駅に出向き、有識者やNPO等の協力も得て、脆弱な国土の災害危険度、防災の基礎知識、避難方法などを身につけてもらうセミナーを実施する。

- タイトル：学ぼう！ 災害への備え
- 場 所：道の駅「上品の郷」（宮城県石巻市）
- 日 時：平成27年3月14日（土）
10：30 ～ 12：10
- 主 催：道の駅「上品の郷」、NPO人と道研究会
- 後 援：国土交通省東北地方整備局、宮城県、石巻市、全国「道の駅」連絡会、
東北「道の駅」連絡会
- 協 賛：公益社団法人 国土緑化推進機構

▽プログラム

- 1 開会 (10:30～)
 - 2 主催者の挨拶 (10:31～10:35)
道の駅「上品の郷」 駅長 太田 実 氏
 - 3 後援の挨拶 (10:35～10:50)
国土交通省東北地方整備局 仙台河川国道事務所 所長 牧 哲史氏
石巻市長 亀山 紘 氏
 - 4 講演 ① (10:50～11:15)
「東日本大震災と道の駅」
道の駅「上品の郷」 駅長 太田 実 氏

講演 ② (11:15～11:30)
道の駅「大谷海岸」で起こったこと
元駅長 米倉 兵一 氏

講演 ③ (11:30～11:45)
その時の私。 今なら話せること
元宮城テレビアナウンサー 善山 望 氏

講演 ④ (11:45～11:55)
宮城県の防潮林について
宮城県緑化推進委員会 河野 裕 氏
 - 5 協賛の挨拶 (11:45～12:00)
公益社団法人 国土緑化推進機構
 - 6 閉会の挨拶 (12:00～)
- 司会 善山 望 (元宮城テレビアナウンサー)

以上

2. パネル展示 同時開催 「大震災の記憶と防災・減災展」

東日本大震災をはじめとする災害は多くの人命、資産を奪い、無残な爪痕を残しました。太古から繰り返される地震、津波の悲劇と、「二度と繰り返してはならぬ」との熱い願いから各地に建立された津波記念碑。その先人の思いを継承し、被災経験・教訓を後世に伝えていくため、震災伝承パネル、被災前後の衛星写真パネル等を各地の「道の駅」で展示します。

東日本大震災の記憶とともに、私たちはこのような大規模災害にどのように立ち向かえばいいのかを共に考える、防災・減災展として、道の駅「上品の郷」で開催いたします。

パネル等は津波の威力、震災被害の深刻さとともに、復旧には迅速で国ぐるみの総合策が必要なことを訴えており、地域住民への危機意識、連帯心づくり、備えへの呼びかけ効果を高めます。

- 主催者： 道の駅「上品の郷」、NPO 人と道研究会
後援： 国土交通省東北地方整備局、宮城県、石巻市、全国「道の駅」連絡会、東北「道の駅」連絡会
- 展示内容
 - ・ A 1 パネル スペースに合わせて選定
 - ・ タイトルスタンド
- 開催期間 (案) 平成 27 年 3 月 13 日搬入
平成 27 年 3 月 14 日～4 月 12 日 (予定)

3. 森の役割を学ぶ写真展

「蘇る山々の緑 ～日本の森林いま むかし～」

国土の約7割が森林におおわれている「森林大国」日本。しかし、外国産材の進出、後継者不足等による林業衰退が各地に広がり、道の駅周辺でも危機的様相を呈します。

一方、国民の自然志向が高まり、地球温暖化防止に対する役割の再評価も進みました。

「ルートプレス」は、地域緑化推進委員会、公益社団法人国土緑化推進機構、各地の道の駅と連携し、森林の保全・再生による災害防止、地域振興への協力、地球環境への貢献を目指して、道の駅で森林の役割について学べる巡回写真展も開催しています。

■ 主催者：公益社団法人 国土緑化推進機構、NPO 人と道研究会、

共 催：道の駅「上品の郷」

後 援：林野庁

■ 展示内容 ・約A1パネル 26枚の中からスペースに合わせて選定

・タイトルスタンド（収納式）

・「地域の緑と地球環境を守る」ことの大切さを普及するための小冊子

・緑の募金箱 1～2個

■ 開催時期 （案）平成27年3月13日搬入

平成27年3月14日～4月12日（予定）